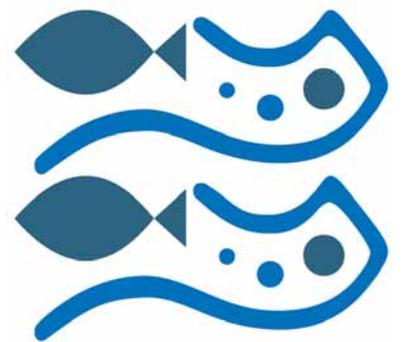




KAWASAKI CITY

か わ さ き
多 摩 川
2 0 0 8



川崎市多摩川シンボルマーク



2009年8月
川崎市環境局緑政部多摩川施策推進課

ごあいさつ

多摩川は川崎にとってなくてはならないものであり、多くの恵みをもたらしてきた「母なる川」です。

この多摩川を市民共有の財産と位置づけ、より身近な魅力ある空間にするため 2007（平成 19）年 3 月に「川崎市多摩川プラン」を策定しました。

多摩川プランは「川とふるさとの再生、市民協働による多摩川ライフの創造」を基本理念に掲げ、「理解」・「整備」・「保全」の 3 つの視点から多摩川への取組のあるべき姿を描き、7 つの基本目標と 30 の施策の方向性をまとめています。

実行 2 年目となる 2008 年度は、昨年度に引き続き多摩川プランに位置づけられたリーディングプロジェクトと重点エリアについて取り組んできました。本報告書では、2008 年度の事業を振り返るとともに、2009 年度以降の課題と方向性を示しています。

報告書作成にあたっては、写真を多く取り入れ、市民の皆様にしんだけでいただける読み物を目指して作成しました。本報告書が多摩川を知り、多摩川に触れるきっかけになっていただければ幸いです。

2009 年 8 月

川崎市環境局緑政部多摩川施策推進課



目 次

ごあいさつ

2008 年度の多摩川	1
（ 1 ）渡し場跡の碑の設置	2
（ 2 ）渡し復活体験	2
（ 3 ）かわさき多摩川博 2008	3
（ 4 ）多摩川環境学習推進事業	4
（ 6 ）丸子橋第 2 広場を全面芝生化	7
（ 7 ）トイレを簡易水洗式に更新	8
（ 8 ）サイン計画策定/シンボルマーク決定	8
（ 9 ）殿町緑地にオオシマザクラを植樹	9
（ 10 ）大雨、災害復旧	10
2008 年度を振り返っての課題	13
（ 1 ）利用者のニーズの変化、施設の老朽化	14
（ 2 ）瀬田河川敷におけるバーベキューによるゴミの放置・騒音等	14
（ 3 ）周辺まちづくりとの連携	15
（ 4 ）環境教育指導者の負担感の軽減	15
2009 年度の方向性	17
（ 1 ）新たな河川敷のあり方の検討	18
（ 2 ）水辺の楽校の設立支援	19
（ 3 ）多摩川緑地の整備・維持管理	19
（ 4 ）川崎市多摩川プラン推進会議（提案）	20
多摩川プランの計画体系	22



2008 年度の多摩川

2008 年度に多摩川で行ったイベントや調査、整備状況をお知らせします。

【市民との協働推進事業】

- (1) 渡し場跡の碑の設置
- (2) 渡し復活体験～ふるさと資産・遺産事業～
- (3) かわさき多摩川博 2008
- (4) 多摩川環境学習推進事業
- (5) アユの経年観察・調査

【施設整備・維持管理事業】

- (6) 丸子橋第二広場を全面芝生化
- (7) トイレの更新を進めています。
- (8) サイン計画策定/シンボルマーク決定
- (9) 桜並木などの創出
- (10) 大雨、災害復旧



源流体験（とどろき水辺の楽校）

【市民との協働推進事業】

(1) 渡し場跡の碑の設置

多摩川には、文献等により渡し場が43箇所あったと伝えられており、そのうち川崎市内には20ヶ所あったと伝えられておりますが、2ヶ所は文献のみの記述で場所が特定できません。特定できている18ヶ所について、後世に伝えるために渡し場跡の碑の設置を行っています。

2007年度は7ヶ所に設置し、2008年度は4ヶ所に設置を行いました。2009年度以降も関係機関と調整しながら設置を進めていきます。

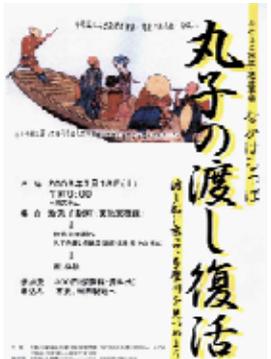


渡し場の跡の碑（上菅の渡し）



(2) 渡し復活体験

渡し場の歴史を後世に伝えるため、渡し場復活イベントを実施しています。2008年度は天候等の都合により1回の実施となりましたが、今後も引き続き実施していきますので、ぜひ体験しにいらしてください。



丸子の渡し復活

2009年もやります！

主催：多摩川施策推進課
NPO法人多摩川エコミュージアム
中原区・なかはらっぱ実行委員会
問合せ：NPO法人多摩川エコミュージアム
Tel 044(922)1025



丸子の渡し体験
「未来への子供たちへ伝える
渡し場の歴史と体験」
実施日：2008年10月17日(金)
対象：上丸子小学校6年生88名

丸子の渡し体験

(3) かわさき多摩川博 2008

多摩川は川崎市域約 30 km にわたって接しており、川崎市の顔としてのシンボリック的存在であると同時に、川崎のまちの歴史を形作ってきた一つの重要な軸です。

今、あらためて生活に身近な自然空間である多摩川の持つ意味合いが再評価されつつあり、多摩川の魅力を最大限に活用し、より多くの市民が集い、楽しみ憩える環境の創出を目指す総合的な施策の展開が重要となっています。

そこで、多摩川の持つ様々な魅力の情報発信を行い、市民の「川」に対する意識をより一層高めていくため、「かわさき多摩川博」と題して、多摩川にかかわるイベント等を特定非営利活動法人多摩川エコミュージアムと協働して年間を通して実施しています。



河口干潟観察会（多摩川河口）



エコ カップいかだ下り

2008 年度は、『エコ カップいかだ下り』と題し、廃材を活用したいかだを使って多摩川の流れを体感していただくイベントや、多摩川と関わりの深い川崎の海について学ぶ『のりづくり体験』などを実施しました。



のりづくり体験



かわさき多摩川博シンポジウム

(4) 多摩川環境学習推進事業

市内の小・中学校では、多摩川における水質検査や生物観察をはじめ、様々な環境学習が展開されています。学習の実施にあたっては、市民活動団体等の協力が欠かせないものとなっており、平成19年度にNPO法人多摩川エコミュージアムで支援を行った学校及び児童・生徒の数は延べ38校2,700名余りにのぼっています。また、大師河原水防センターにおいても、河口の干潟等を舞台にした環境学習が運営委員の協力のもと、広がりを見せており、学校における環境学習の需要が増えてきています。

一方、多摩川プランでは「川崎っこプロジェクト」として、学校教育における多摩川の活用や環境学習の推進を位置づけていることから、環境学習の推進を図るため、市内全小中学校にアンケートを実施しました。

その結果、環境学習の実施における専門家の支援や具体的なプログラムについての要望が多くみられました。



生徒向けポスター（案）

(5) アユの経年観察・調査

多摩川再生のシンボルである「アユ」は、年間数百万匹が遡上し、県内でも遡上数が大変多い川として釣り人等には知られていますが、一般の市民にとっては、目にする機会が少なく必ずしも知られておりません。このため、昨年度から、市民参加型のイベントを通してより身近に多摩川のアユの存在と自然環境に対する理解を深めていただきました。



アユの稚魚（ふ化後約100日）



調査箇所



アユの稚魚（ふ化直後）



多摩川で遊びたい！
多摩川を知りたい！
そんなときは、下記に問い合わせをしてみてください。
きっと知りたい情報がみつかります。

がっこう

✓ 水辺の楽校

水辺をフィールドに、子どもたちが川に親しむ自然体験活動を推進しようというプロジェクトで、市民を活動主体に、国・市も連携して事業展開しています。

川崎市内には現在2校の水辺の楽校があり、月一回程度、様々なイベントを実施しています。

かわさき水辺の楽校：JR 南武線・小田急線 登戸駅下車徒歩 10 分、JR 南武線 宿河原駅下車徒歩 15 分
とどろき水辺の楽校：東急東横線・東急目黒線「新丸子駅」徒歩約 20 分（等々力緑地そばです。）

問い合わせ先：044(900)8386（多摩川エコミュージアム事務局、二ヶ領せせらぎ館）

044(200)2268（川崎市環境局緑政部多摩川施策推進課）

✓ 二ヶ領せせらぎ館

二ヶ領せせらぎ館は、国土交通省京浜河川事務所が管理する二ヶ領宿河原堰の一部を「多摩川エコミュージアムプラン」の運営拠点・情報発信センターとして、川崎市と NPO 法人多摩川エコミュージアムが協働で管理運営する施設で、平成 11 年 3 月に開館しました。

管理運営や事業の企画・運営は NPO 法人多摩川エコミュージアムに委託しており、館を中心に様々な市民活動が展開されています。

ア ク セ ス ; JR 南武線・小田急線 登戸駅下車徒歩 10 分

開 館 日 : 月曜日を除く毎日（月曜日が祝日の場合は翌平日）
10 時から 16 時まで

問い合わせ先：044(900)8386



✓ 大師河原水防センター（干潟館）

多摩川の氾濫等により被害を受けた場合に応急復旧活動を行うための拠点施設で、国土交通省と川崎市が平成 19 年 12 月に整備し、開館しました。

洪水等の災害時は応急復旧活動などの拠点となりますが、平常時は施設の一部を多摩川河口部周辺での環境学習や歴史文化等の情報提供、水防訓練の場として、平成 20 年 1 月から運営しています。平常時の運営は、地域の市民や多摩川で活動している方々により構成されている大師河原水防センター運営委員会が行っています。

水防センターを拠点とした河口の水辺の楽校の開校にむけ、現在準備を進めています。

ア ク セ ス ; 京浜急行大師線東門前駅下車徒歩 7 分

開 館 日 : 水曜日、土曜日、日曜日、祝日 10 時から 16 時まで

問い合わせ先：044(287)7882（開館時のみ）

閉館時は多摩川施策推進課 044(200)2268



イベントカレンダー2009

日程は年度当初の予定ですので、変更になることがあります。
また、降雨や増水等の理由で中止・延期になることがあります。
イベントの詳細は主催団体または多摩川施策推進課までお願いします！

	春		夏			秋			冬		春	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
かわさき水辺の楽校	かわさき水辺の楽校開校式		投網陸上訓練	奥多摩サマーキャンプ		多摩川本流で投網打ち			手作り教室			せせらぎ池の大掃除
とどろき水辺の楽校	10日(日)河口干潟観察会		生田緑地のゴルフ場で外遊び	ニヶ領用水で魚つかみ		フロンターレ eco-ラシコ	秋の奥多摩ハイキング		多摩川凧揚げ大会・川崎カルタ大会		夢わかめワークショップ	
とどろき水辺の楽校開校式		安全講習とカヌー実践教室	源流体験&キャンプ inKOSUGE			秋の染めもの	夢わかめワークショップ		野鳥観察会	多摩川凧揚げ大会		クリーンアップ
ニヶ領せせらぎ館 (NPO法人多摩川エコミュージアム)	鯉のぼりまつり			多摩川夕涼みコンサート								20日(土)かわさき多摩川博シンポジウム
	多摩川桜のコンサート	丸子の渡し復活イベント	丸子の渡し復活イベント			6日(日)エコカップいかにだくだり						
大師河原水防センター (干潟館)	多摩川幼児サロン(絵本読み聞かせ、月1回、第3火曜日@ニヶ領せせらぎ館)											
	エコクラフト(自然の素材を使って工作、月1回、第1土曜日@干潟館)											
	定例観察会(月1回、第3土曜日@干潟館)											
国土交通省 京浜河川事務所		流域セミナー	夏休み多摩川教室	多摩川源流教室		流域セミナー			流域セミナー			
	流域懇談会(月1回)											
川崎市	10日(日)河口干潟観察会		1,2日(土,日)生田緑地サマーナイトフェスタ			6日(日)エコカップいかにだくだり			15日(日)川崎国際多摩川マラソン			20日(土)かわさき多摩川博シンポジウム
		31日(日)多摩川美化活動		8,9日(土,日)多摩川カヌー教室			14日(土)みずウォーク					21日(日)多摩川リバーサイド駅伝
市外	4日(月・祝)小菅村源流まつり			26日(日)丹波山村源流まつり								ピンク色の噴出しは多摩川博として行うイベントです!



夏休み多摩川教室は、夏休みの宿題にピッタリ!



干潟館では月一回、定例観察会を行っています。

(6) 丸子橋第2広場を全面芝生化

多摩川は多種多様な自然が存在するとともに、野球場やサッカー場などの運動施設や広場もあり、多くの方々に利用していただいております。しかし、ここ数年は裸地化の進行や施設の老朽化に加え、スポーツ広場に対するニーズも多様化するなど、多くの問題を抱えています。

そこで、利用の多い地区を中心に広場やグラウンドの再配置や再整備を進めています。

2008年度は、丸子橋と東急東横線の間にある交通公園跡地及び丸子橋第2広場の再整備を行いました。以前はスポーツ利用が中心でしたが、現在は川側の広場についてはスポーツ利用、堤防側が家族連れでも楽しめるピクニック広場となります。

全面芝生化したグラウンドとあって、市民の皆様の関心は非常に高く、整備中であるにもかかわらず“いつオープンするのか？”、“施設は予約が必要になるのか？”といった問い合わせをいただきました。現在、芝生を養生しているため、7月以降のオープンを予定しております。



多摩川緑地のご利用上の注意

- ・バーベキューや花火など、火気の使用は条例で禁止しておりますので、予めご了承ください。また、ピクニック等で利用される場合でもごみは必ずお持ち帰りいただきますようお願い申し上げます。
- ・周辺の住宅地でも聞こえるようなボリュームでの音楽演奏はご遠慮願います。

【丸子橋第2広場・丸子橋ピクニック広場へのアクセス】

電車の場合：東急東横線新丸子駅から徒歩約10分

車の場合：緑地内に駐車場がございます。ただし、開場日は土・日・祝日、振替休日です。

また、年末年始は閉鎖しておりますのでご注意ください。

狭いし暗いし...
子どもが落ちてしま
わないか心配だわ。



(7) トイレを簡易水洗式に更新

従来から河川敷に設置されている汲み取り式トイレは、整備から年月がたち、老朽化が進んでいることや必ずしも快適な利用環境であるとはいえないため、簡易水洗トイレへと更新を進めています。2008年度は宇奈根、瀬田、上丸子地区の3箇所に設置いたしました。

今後も河川敷をもっと安心してご利用いただくため、順次更新を進めていきます。



(8) サイン計画策定 / シンボルマーク決定

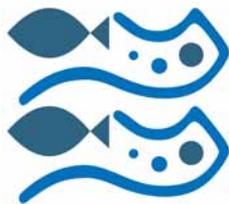
多摩川への道のりを示したサインを見たことがありますか？

これまで川崎市には、多摩川への道のりを示すサインは無いに等しく（あっても鉄道会社等が設置した地図などわずかに）、多摩川緑地*を説明する看板もありませんでした。

そこで2008年度に『川崎市多摩川サイン計画』を策定しました。今後5年を目処に、鉄道やバスの最寄り駅から多摩川への道のりを示すサイン、多摩川緑地内における現在地を示すサイン、施設を紹介するサインなどを設置していく予定です。2009年度は大師河原水防センターへの案内サインを設置を予定しており、順次多摩川へのアクセス向上、多摩川緑地の利便性の向上を図っていきます。



多摩川の「多」の文字をモチーフしました。川の流れと多摩川に住む魚をデザインしました。（応募者の声）



川崎市多摩川シンボルマーク

また、「母なる川・多摩川」により愛着を持ってもらうため、公募にて川崎市多摩川シンボルマークを決定しました。応募者総数103名、応募作品数132作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞4点、特別賞1点を選出しました。このシンボルマークは、サイン整備の際に使用するほか、多摩川に関わるイベントの広報活動などでも積極的に使用し、多摩川を広く市民にアピールするために役立てていきます。

* 多摩川緑地とは？ 川崎市が管理している、多摩川河川敷内の緑地の総称です。

(9) 殿町緑地にオオシマザクラを植樹

かつて川崎市には多摩川の桜の名所として、稲田堤の桜並木があり、大正期、昭和初期は大勢の花見客で賑わっていました。現在、川崎の多摩川沿いには大師河原、等々力など4箇所の桜並木があり、開花時期には多くの方が花見を楽しんでいます。川崎市では、多摩川プランの施策の一つである桜や松などの並木の復活や創出をスーパー堤防の整備や沿川市街地の整備などにあわせて、進めていくこととしています。



桜並木整備工事（殿町緑地）

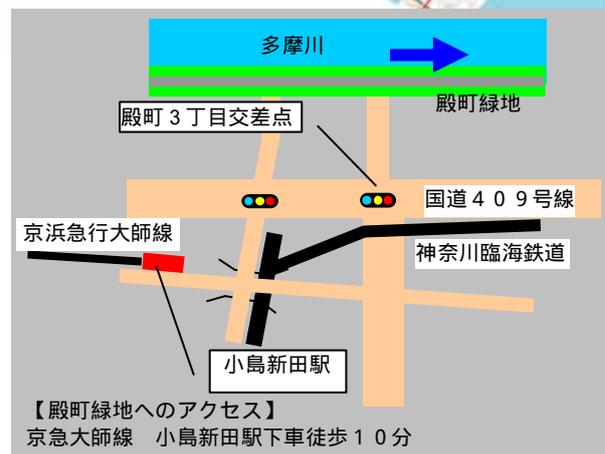
昨年度は、スーパー堤防事業が進められている川崎区殿町にある殿町緑地において、オオシマザクラを

植樹しました。本数は6本と少ないことや、現在もスーパー堤防事業が進められているため、なかなか見ることはできませんが、数年後には多摩川河口域の風景の一つとして完成する予定です。



ご注意

・殿町緑地付近は、堤防を強化する工事が行われておりますので、フェンスで囲まれた区域に入らないようご注意ください。



(10)大雨、災害復旧

2008年8月29日未明に振り出した激しい雨により、多摩川の水位は急激に上昇。マラソンコースは破損し、バックネットやベンチは流され、流木やゴミが溜まるなど、多摩川緑地の各施設にも大きな被害をもたらしました。仮復旧は10月末まで、本復旧は3月末までかかりました。



2008 年度を振り返っての課題



河川敷でのバーベキュー（瀬田）

(1) 利用者のニーズの変化、施設の老朽化

平成 21 年 3 月の時点で人口が 139 万人を超え、都市化が著しく進む川崎市において、多摩川は多種多様な生物が生息している貴重な自然空間であると同時に、河川敷にある多摩川緑地は川崎市民にとって、憩いの場あるいは、スポーツを楽しめる空間となっています。また、近年は市民団体や NPO の活動が盛んになり、多くの方が多摩川を訪れるようになったことや各種スポーツの人口に変化が見られることから、河川敷利用者のニーズは多様化しており、それに対応した施設整備が求められています。

さらに、河川敷の多くの施設は利用が開始されてからかなりの年月が経過しており、老朽化しているものも少なくありません。このため、安全性や利用環境の向上を図り、誰もが安心して多摩川を訪れることができるように施設の再整備に取り組む必要があります。

例えば、河川敷のトイレは多摩川を訪れている方にとってなくてはならないものですが、旧来の汲み取り式トイレは老朽化が進んでいるうえ、階段を上り下りする必要があるなど、必ずしも快適な利用環境とはいえません。これまでも、階段を上り下りする必要もなく、かつ水洗トイレと同じような使い勝手の簡易水洗トイレへと更新を進めているところですが、今後はどなたにも安心して使っていただけるよう完全バリアフリータイプトイレの導入を進めていく必要があります。



階段を上らないと使えない汲み取りトイレ

(2) 瀬田河川敷におけるバーベキューによるゴミの放置・騒音等



一時集積所に集められたゴミの山

都心に近く、周辺の駅からも近いという立地条件に恵まれた瀬田河川敷は、十数年前からバーベキューで利用されておりましたが、近年はアウトドアブームも後押しし利用者が特に増加しているうえ、マナーの悪い利用者が多くなり、周辺の住宅地へゴミを捨てるあるいは、深夜になっても騒ぐなど、近隣住民が多大な迷惑を被っている現状があります。市や国土交通省、鉄道事業者などで対策を協議し、ゴミの一時的な集積所の設置や利用者に対するマナー啓発

を呼びかけてきましたが、苦情が絶えないことから早急な解決が求められています。また、丸子橋についてもバーベキュー利用が多く、週明けの月曜日は大量のゴミが発生しているため、瀬田河川敷と合わせて解決を図っていく必要があります。

このため、全面禁止や有料化を含め、河川敷占用についての新たな制度の導入を視野に入れた対策を検討していきます。また、市外から訪れる方も多いと考えられることから、川崎市内にとどまらず、周辺の大学などの教育機関や企業に対して、普及啓発を諮るなど、総合的な対策を進める必要があります。



* 川崎市が国から占用している多摩川緑地内での火気使用は川崎市都市公園条例により禁止されていますが、国の管理地は「自由使用」が原則となっています。

(3) 周辺まちづくりとの連携

多摩川周辺では、小杉駅周辺や殿町では再開発などによるまちづくりが進められており、また等々力緑地も再編整備計画の策定が進められています。多摩川プランでは多摩川の風景づくりや市民に身近な多摩川を基本目標の一つとして位置づけていることから、周辺のまちづくりと連携し、桜並木などの復活や多摩川へのアクセス改善、河川空間の新たな利用促進など、周辺のまちづくりと連携した整備を進める必要があります。

(4) 環境教育指導者の負担感の軽減

多摩川環境学習推進事業で実施したアンケートの結果、小中学校の先生方は環境教育に対して負担感を抱いている人が多いことがわかりました。2009年度は負担感を軽減すべく、学校に対して積極的な情報の提供として、環境学習を実施する際に役立つ既存の資料や支援団体のリストなどを記述した“ガイド資料”を作成していくなど、多摩川を環境教育の場として活用しやすいような支援が必要となっています。

2009年度はこれらの資料を学校に配布し、意見をいただきながら修正を行い、より環境学習を進めたいいただくための資料を作成していきます。



先生用ガイド版(案)



2009 年度の方向性



丸子橋第二広場(2008年度整備)

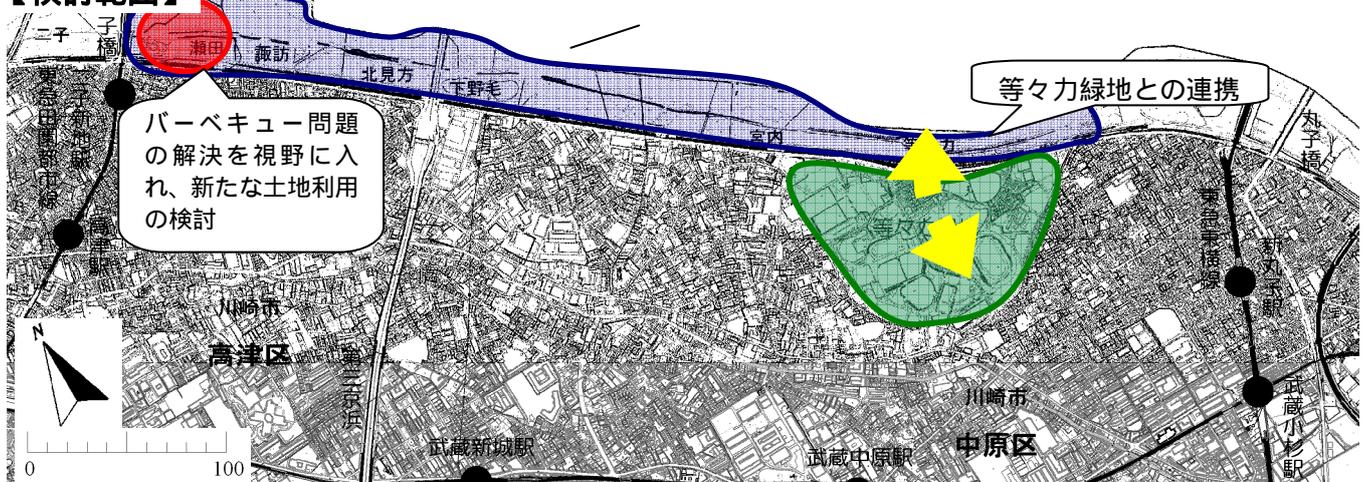
2008年度の取組と課題を受け、2009年度は以下の3点を重点的に取り組んでいきます。

(1) 新たな河川敷のあり方の検討

瀬田河川敷でのバーベキュー利用によるゴミ・騒音等の問題の解決や、等々力緑地再編整備計画と連携した多摩川河川敷を目指し、新たな河川敷の利用のあり方を検討します。

検討の際には、社会実験や包括占用等の新しい手法も視野に入れ、当該地に適した手法を取り入れていきます。

【検討範囲】



？ 包括占用とは？

一級河川である多摩川は、国（国土交通省）が管理しています。国から占用許可を受け、河川敷の一部を、自治体などが公園等の利用目的で占有している区域があります。（川崎市が公園として占有許可を受け、管理しているところが 多摩川緑地 です。）

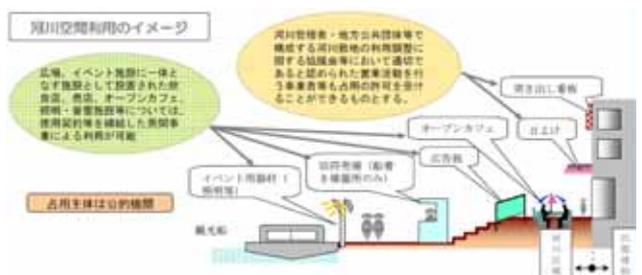
これまで占有許可を受けるにあたっては、あらかじめ利用目的を決めておかなければなりませんでした。包括占用制度により、河川敷地の具体的な利用方法を、占有の許可後に決定できるようになりました。



？ 社会実験とは？

民間に対しても、オープンカフェの実施やイベント施設等の河川敷利用を認めるものです。

広島市で行われているオープンカフェなどがこれにあたります。



(2) 水辺の楽校の設立支援

多摩川河口域を拠点とした川崎市内3番目の水辺の楽校の設立を目指し、その設立を支援していきます。

また、大師河原水防センターや二ヶ領せせらぎ館などの拠点施設を活用した市民活動（河口の観察会や、小中学生を対象とした環境学習等）の支援を充実させていきます。



水防センター内部

・水辺の楽校（かわさき、とどろき）

平成20年度実績

27回開催、

延べ参加人数 約1,900人

・水防センター

来館者数 4,643人

（開館日 122日）



水辺の楽校



河口の観察会

(3) 多摩川緑地の整備・維持管理

いつも皆様に安心して使っていただけるよう、河川敷内の運動施設の適正な維持管理を引き続き続けてまいります。

それに加え、丸子橋第二広場の第二期整備工事をはじめとする施設の再整備や、完全バリアフリータイプのトイレ設置によるアメニティの向上、国と連携した階段や緩傾斜スロープの設置、サイン施設等の整備によりアクセス改善を進めていきます。



緩傾斜スロープの整備



マラソンコースの補修

その他予定されている（または実施中の）事業は以下のとおりです。（上との重複あり）

市民協働関連

<多摩川エコミュージアムプランの推進>

「多摩川シンポジウム」事業の推進（かわさき多摩川博、いかだ下り大会、水ウォークなど）

「ふるさと資産・遺産活用」推進事業の実施（渡し場跡の碑の設置）

多摩川環境学習活用調査

ニヶ領せせらぎ館や大師河原水防センターの管理運営

市民活動団体の支援

パークボール場維持管理（指定管理者）

維持管理

多摩川緑地・運動施設の維持管理水準の向上

野球場・サッカー場等の運動施設の維持管理

サイクリングコース・マラソンコースの維持管理

施設整備

運動施設・緑地・駐車場の再整備・再配置

重点エリアの整備（等々力・丸子橋地区周辺エリアの第2期再整備工事（駐車場拡充）など）

マラソンコースの再整備

簡易水洗トイレの設置

川崎市多摩川サイン計画の推進

(4)川崎市多摩川プラン推進会議(提案)

これまで今回を含め、全5回の推進会議を行ってまいりました。これまでの会議はどちらかという「進捗状況の報告」が中心でした。

しかし、「川崎市多摩川プラン」策定後3年目を迎え、推進会議も進捗状況の報告だけでなく、「課題の把握、方向性の明示」や具体的な手法を議論していく場としていく必要があるのではないかと考えています。

そのためには、それぞれの推進施策の実施状況を数値化し、わかりやすくすることや実際に多摩川で活動している人と、施策を進める行政との意見交換の場とする必要があるのではないかと考えています。また、報告書についても、実施状況の報告だけでなく、多摩川プランに関する情報誌として、各種イベントや多摩川の見所の紹介、多摩川へのアクセス手段などの情報も盛り込むなど、多摩川を訪れる一つのきっかけとなるような構成としていく必要があると考えております。



サイン（案）川崎市多摩川サイン計画より抜粋

多摩川プランの計画体系

多摩川プランは、「川とふるさとの再生、市民協働による多摩川ライフの創造」を基本理念に掲げ、「理解・整備・保全」の3つの視点から多摩川のあるべき姿を描いています。

基本理念 基本的視点	基本目標
<p style="text-align: center;">基本理念</p> <p style="text-align: center;">「川とふるさとの再生、 市民協働による 多摩川ライフの創造」</p> <p>多摩川プランでは、「川崎の母なる川・多摩川」の魅力を流域を含めた一人ひとりの市民が共有し、豊かな自然環境と多様な生命が共存しうる新しいライフスタイルを創造することを目指します。</p> <p>また、総合行政の展開・推進を図るとともに、多摩川についてのさまざまな情報発信を行いながら、過去の多摩川の記憶を前提として、多摩川の未来を語りながら、多摩川の課題とあるべき姿、目指すべき方向性を共通のものとし、それぞれの主体がともに役割と責任を担い、市民、企業、行政が協働しながら、より魅力的で豊かな多摩川を持続的に育ていけるしくみづくりを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> . ふるさとの川・多摩川を育む . 多摩川の風景づくり . 市民に身近な多摩川へ . 運動施設の利便性向上 . 子どもの生きる力を育む場の創造 . 生命の賑わい豊かな多摩川へ . 参加と協働による川育て
<p style="text-align: center;">基本的視点</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>多摩川を『理解』する</p> <p>多摩川の「これまで」の歴史を振り返る 多摩川の風景・ランドスケープデザインを考える</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>多摩川を『整備』する</p> <p>市民に身近な集いの場として多摩川のさらなる利用を促進する 運動施設としての多摩川緑地を充実する</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>多摩川を『保全』する</p> <p>子どもたちの環境学習のフィールドとしての水辺を活用する 多摩川を持つ豊かな自然環境資源を活かす 多摩川流域での連携により多摩川を保全する</p> </div>	

また、7つの基本目標、30の施策の方向性、55に推進施策を計画のプランに位置づけています。

施策の方向性

1. 多摩川の歴史を記録する
2. 歴史を学ぶしくみづくり
3. 多摩川の歴史を活かす
4. 多摩川見所づくり
5. 河原風景の保全、桜並木などの復活
6. まちと川で生み出す風景へ
7. 川への道しるべ ～総合的サイン計画の展開
8. 川へのアクセス
～バリアフリーとユニバーサルデザインの推進
9. アメニティの充実
10. 「川のひろば」の創造
11. 河川敷の利用ルールづくり、バーベキュー問題の解決
12. 親水空間・水面利用の促進とさらなる空間利用の推進
13. 多摩川をみんなのものに ～ホームレス問題への対応
14. 安全・安心な川づくり
15. 利用システムの改善
16. 管理水準の向上
17. 施設の再配置・最適化
18. 多様な環境学習・教育の推進、地域・学校の連携
19. 身近な水辺・河原の復権～子どもたちの遊びの場に
20. 泳げる川を目指して
21. 流域の水と緑の保全・創出・ネットワーク化
22. 多摩川河口干潟・汽水域の保全
23. 環境再生・多自然川づくり
24. 生き物たちの生命賑わい豊かな川へ
25. 多摩川をまちの広場に
26. 市民・企業・学校・行政の協働
27. 市民参加の川づくり
28. 企業の参加促進
29. 情報共有とサテライトの展開
30. 流域連携と交流の促進 ～源流と河口をつなぐ

推進施策

- 歴史的・文化的資源の体系的収集・保存 水文化の創造と伝承
歴史をテーマとした学習会等の開催
「ふるさと資産・遺産」の活用 ニヶ領用水を活かしたまちづくりの推進
- 花のある川づくりの推進 多摩川のビューポイントの整理・活用
河原風景の保全・桜並木などの復活
多摩川景観形成ガイドラインの策定 川の修景
- 総合的なサイン計画の推進 川への案内・川からの案内の整備
バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進 アクセスの向上
トイレ環境の改善 駐車施設の充実 休息施設・緑陰樹の設置
「川のひろば」・「川の一里塚」の整備
「利用ルール」づくりとその展開 バーベキュー問題の解決
船着場の活用 河川空間の新たな利用促進 未占用地の有効活用
ホームレスの自立支援策の推進
治水の強化・防災性の向上
- 利用システム改善に向けた検討
緑地施設の管理水準の向上 サイクリングコースの充実
施設の再配置・再整備 マラソンコースの再整備
- 環境学習・環境教育の推進 水辺の学校の展開
「河原の復権」に向けた取り組み
水質の向上・水量の確保
- 流域における緑地保全 水系・緑地のネットワーク化
流域における地下水・湧水保全など水循環の回復
河口域における観察ポイントの創出 水質・生物・底質の調査
多自然川づくりの推進 生物に配慮した堰の管理 環境に配慮した施設整備
市民参加による生物調査
生き物たちの生命賑わい豊かな川へ（生物多様性の保全）
- コンサートの開催や水辺の文化活動の推進
多摩川エコミュージアムプランの推進 地域連携イベントの開催
多様な主体を支えるシステムづくり 協働型事業の実施
仮称「多摩川プラン推進会議」の設立
企業と育む環境作り
総合的な情報共有・受発信 拠点施設の充実 シンポジウム等の協働開催
流域懇親会など流域間連携・交流の展開・促進

2008年度多摩川プランの推進に関する報告書

2009(平成21)年8月

発 行 川崎市環境局緑政部多摩川施策推進課

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電 話 : 044(200)2265

ファクシミリ : 044(200)3923

e-mail : 30tamasu@city.kawasaki.jp



クロベンケイガニ